

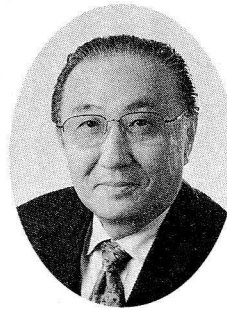
幽玄

題字 高秀秀信

横浜能楽連盟
会報 No.38

平成21年8月31日

開港百五十年を迎えて



会長 新堀 豊彦

今年の横浜はまさに開港百五十周年一色に包まれたようです。当連盟は、百参十周年のお祝いの時、文化功労団体として横浜市より表彰を受けた記憶があります。横浜における能楽謡曲の歴史は「お能と横浜」(能楽連盟創立五十周年記念誌)に

発展し、能を見る市民がようやく現れるに至ったという雰囲気。御案内の通り、明治維新によって幕藩体制が消滅し、幕府を

詳述されておりますように、もっとも古い演能の記録は明治六年(一八七三)野毛山大神宮境内において五日間に及ぶ興業が行われたのが最初と思われます。一八五九年に開港された横浜において本格的な「日数能」が開催されるまで、十数年の年月が必要であったわけで、横浜が都市として、貿易の港町として

始め、各大名の保護を受けていた各流宗家は拠り所を失い、四散する憂き目にあったわけで、明治初年頃は能楽界の凋落のどん底であったといつてよく、その時代において、「日数能」を横浜において上演したという事実はかなりの重要性を感じさせます。

横浜財界の重鎮であった初代茂木惣兵衛が、観世流梅若派の梅若実を横浜に招き、自宅で稽古をはじめたのが、明治十六年

頃という記録も残されているので当時日本の経済界において大活躍し、横浜を貿易の中心地として繁栄せしめた豪商たちが、いち早く趣味として謡曲を始めたとことは、注目に値することであつたと云わなければならぬでしょう。

横浜能楽連盟は、そうした歴史の基盤の上に、明治、大正、昭和の先輩が築き上げた壤土によって、今日、六十年余の実績を持ち得たものと考えます。

したがって、今回行われます第二十五回横浜五流能楽大会は、その歴史をふりかえり、開港百五十周年という大きな節目にふさわしい大会といたしたく、趣向をこらして開催いたします。

会員各位、横浜市民の皆様、御協力を心から感謝申し上げ、御挨拶とさせていただきます。

連盟報告

企画事業担当 鈴木 力雄

平成21年度総会は、4月21日午後2時から横浜能楽堂二階レストランで、開催された。

4月1日現在の会員数530名(前年比9名減)、出席会員311名の出席(委任状によるものを含む)により、総会は成立。

高岡副会長 開会の辞、新堀

会長 挨拶のあと、武井伊織横浜市文化振興部長、横浜能楽堂熊谷さんの来賓祝辞があり、会長が議長となつて、各議案が審議され、平成20年度活動報告、決算報告、監査報告、平成21年度活動計画(案)、予算(案)、APECの対応について、はいずれも原案のとおり承認され、堀内副会長 閉会の辞で終了した。

第1号議案では、平成20年度が横浜能楽連盟創立60周年記念の年であり、かつ、横浜開港150周年・前年の年でもあるので、横浜能を2日興業の「新能」とし、「横浜五流能楽大会」では子ども能「九頭龍」など、主催事業は好評のうちに終了しました。組織広報活動では個人会員が10名減となったことなど報告しました。

「自不知」

観世流 志澤 満

3号議案は、来年度のAPEC横浜誘致が決まったことに加えて、参会者歓待の一つに「能観賞」を加えたことを、市民として能楽愛好者として、最高の「もてなし」になるものと喜んでることを訴え、訪日されるAPEC関係者に横浜能楽堂で観能できるよう。との、市長・県知事あて、要望を決議したものであります。

なお、要望書は4月11日、会長が野田由美子副市長と面談し、手渡しました。

活動計画では、第57回「横浜能」を11月7日(土)に観世流・田邊哲久師による「夜討曾我」に決まり、第25回横浜五流能楽大会は、幹事担当、宝生流で9月19日(土)に、会員による素謡、仕舞などとともに、開港150周年記念参加行事として、(観)梅若会のパトリシア・マスイ、堀内万紗子両氏の素人能「吉野夫人」を演能します。

また「第13回五流交流のつどい」は、平成22年2月13日(土)に開催いたします。

「謡曲」に出てくる人物、事物などでその虚実を問わず、それに関連することに予期しない時、所で出会いますと、旧知の人に逢つたような懐かしさを感じることがあります。その様な感じがしたいいくつかのことを書いてみます。

大平洋戦争で日本の商船隊は総トン数の8割以上を喪失し、数万に及ぶ海没海員が生じた忘れ得ざる悲劇があり、現在も海難等による殉職事故が毎年生じています。

三浦半島観音崎に殉難殉職船員の方々の大きな慰霊碑があります。慰霊碑は真南に向き緑に

囲まれ、少し下方に群青の海を望んで建っています。

そこで毎年慰霊祭が行われておりますが、一度参列したことがあります。その際には「能」が奉ぜられたことを覚えております。内容は「次第」で、戦争

により幾多の犠牲が生じたこと、龍神が出現して海の平和を祈って還るといふ短いものですが、大きく開けた空と海を背景とした演技は力強いものでした。しかし、それがどの方々の心情と努力で実現されるに至ったかは知りませんでした。『幽玄』

(37号)の記事でその経緯等を読み、再びその時の印象が蘇りました。

次に昔の友人に声を掛けられたような気がしたのは、京急金沢八景駅からシーサイドライン駅に向う途中、急ぎ足で通り過ぎようとして、ふと右を見ますと、この地は古くは瀬戸の三島という景勝地であるという表示がありました。

八景駅近くの神社を幾度も見ておりましたが、やっと謡曲の舞台であった瀬戸神社であることに気付いたのでした。

これは最近になってインターネット・ウィキペディアのフリーエムエルペディアの「信西」の項で読んだことですが、信西(藤原通憲)の死の背後に

法皇の存在があるという説がある旨の記載がされておりました。

「平治物語」にある信西殺害の際の不思議な状況や、信西が法皇を暗主と呼んだことなどと、考え併せまると一段の興味が増します。

また同時にそのことは、阿波の内侍が信西の娘であるか否かは別として、法皇が内侍に声を掛ける有名な場面、内侍の「今は恨みと思つていません」と答える、その言葉の意味は今までより大分異なつて感じられます。

また、同一題名で描かれた「日本画」の場面も色調も変わってしまうかもしれません。

謡曲について、道標、インターネット等で気付きさえすれば、多くを教えてもらえらると思いますが、私について云えば、その多くに気づかず、過ぎていくように思います。

大すきな牛若丸

観世流・梅若会
本更津小学校3年 岩せ はじめ



ぼくは、6さいの6月6日におけいこを始めました。さいしよは、「つまらないなあ」と思いました。でもそれは、「おのうで『牛若丸』をやれる」と知らなかったからです。ぼくは、「よしつね」をテレビで見て、

「よしつね」をテレビで見て、かっこいいと思いました。「牛若丸のやくをやってみよう」と思いました。

しかしいきなりはできませんでした。まず、「しようじょう」をやることになりました。ほり内まさ子先生が、ぼくがどれだけうまうできるかのくんれんです。

「牛若丸のファンとして」しようせんしました。しかし、すつとこどっこい、ぼくの「まい」がうまかったのでしょうか。二ど目のぶたいで「はしべんけい」。しかもぼくは、牛若丸をやれることになりました！

こんどは、れんしゅうするところは、ほり内先生の家でしうめ若やすのり先生が、「地下室に行つて。」と言われました。「はじめしてるのかなあ」と思いながらドアをあけると、なんと、ゆかはピカピカ。ぶたいの形の場所もあります。そして、まってみると、どうでしょう、この気もちよさは。うれしさにあふれ、「まい」もすぐにおぼえました。もう一つうれしかつ



たのは、おわるとおかしとジュースが出たことです。

本番 なにもかもやりとおし、かんべきに、まえました。

こんどの秋は、「あたか」の「すうたい」をやります。「まい」がないからむずかしそうですが、また、「よしつね」で、とてもうれしいです。

計算ソフト

宝生流 服部 雅夫

私が30年近く付き合っている、車のディーラーの副店長はJと云う男である。彼は10数年前就職と同時に、今の支店に配属された。今春何人かの同僚をゴボウ抜きして、係長から副店長に昇格したのである。彼が入社して間もない頃、何となく店に立ち寄った。その時の車は既に5年乗っていたので、新人を一寸からかうように、買い換えの素

振りを見せたのが、いけなかった。

その夜晚酌が終り、いい気持でテレビを見てみると、彼が真剣な顔をして、話をしたいと訪ねて来た。8時を過ぎているので、明日話し合おうと云うと、今日だけの話なので明日は無いと云う。ひとまず話を聞こうと云うと「昼に見ていただいた車の値段だが、今夜契約の印を押してくれば、××万円で売ります。」この値段は今夜だけのものだ、と真剣に迫って来た、私も半分酔いが手伝っていたので、あと1、2年乗る積りでいたが、そこで値引するならと了承した。

彼は電話を貸して欲しいと、店長に報告を入れた。狭い家なので、彼の話は8割方、こちらに聞こえた。話の様子では、値引の提示がごく僅か、彼の裁量を越えていたようで、店長が難色を示したようだ。彼は泣かぬばかりに、初めて車を売るので、是非売らせて下さい。今後も仕事は頑張ります。と電話の前で土下座せんばかりに訴えた。15分位訴えの甲斐あって店長の許可が出、彼としては初めての車が売れた。それから、××万円の車に対する税金、登録料、保険、付属品、下取車の値引など、間違わないように何度も電卓を

たいて、契約書が出来上った。実印を押して契約が成立したのは、10時近かった。

翌日、夜 8時頃、チャイムが鳴るので出てみると、彼がシヨンボリ立っており、実は昨日の計算は2万円の計算違いがありました。2万円高くなると云うのである。契約は終わっている云々と、仕方がないので私が負担すると云うではないか、責任は彼にあるが、可哀相なので1万円渡し折半にしよう云った。彼は一応云ってみるものだという顔をして帰った。

何日か後、納車に來た彼に、世話になったお札だと云って、1万円を封筒に入れて渡した。それ以来ずっと、彼は懐いて來ている。

先日副店長の昇任の挨拶に來た時に、部下の計算違いには、気を付ける様に云った処「嫌な事を憶えていますね。でも今は良い計算ソフトが出来たので、全く心配はいりません。」と大笑いをして帰って行った。既にその顔は副店長の顔であった。

恩師に恵まれて

金 春 流 山 本 和 俊

去る2月14日横浜能楽連盟が創立60周年を迎えられましたことに誠に慶賀にたえません。

歴代の会長、役員各位のご努力に對し、心から敬意を表したいと思ひます。当日私も連吟、付祝言を勤めさせて頂き、大変感激いたしました。

さて私は、昭和57年50才の時、年相応の趣味を持ちたいと思ひ友人に相談したところ謡はどうかと誘われたのがこの道に入りました始まりでした。

能楽五流の中で、どの流儀にしたらよいのか迷いましたがふと母方の祖父、曾祖父が肥後熊本細川藩に代々仕え、謡は金春流を稽古したという事を聞き、早速伝手を求め、東京千代田区富士見町の桜間金太郎（龍馬）先生宅に伺い入門をお願いすることになりました。

お稽古は富士見町の先生宅と鎌倉長谷の権五郎神社の会館に月3回お伺いすることになりました。金太郎先生は最初に稽古の心構えとして世阿弥の風姿花伝より「稽古は強かれ情識は無かれ」（稽古は徹底して厳しくなくてはならない。しかし人間はかたくなではない）と教示されました。先生の謡は流儀独特の重厚、豪放なもので対座してもただ圧倒され、声も出ない有様でした。時に先代弓川師の折りふしの話をお聞きしましたが、特に弟子家で400年ぶりで「関寺小町」を披いた昭和30年当時のいきさつ等をお聞き

したので今でも思い出しております。



さて実技は桜間辰之先生に謡、仕舞を対面一句づけで、教えていただきましたが特に印象に残ったのは「謡はあくまでも音楽であり、聴くものに心地よく美しいものでなくてはならない。又謡本の記号はあくまで記号であり完全に表現できるものではないので師匠の表現されるものをよく聞き自分のものにしないてはならない」この点を特に強調されました。

又「舞については大きく舞うこと足腰の強さが特に重要で肩から上の手はそれについてくるものである」と常に心掛ける事が大事であると教えていただきました。先生の謡、舞は大きく上品、しかもデリケートであり、あくまでも力強いものでした。

以上金太郎、辰之両先生に10数年教えをいただきましたが、残念乍ら金太郎先生は、平成3年、辰之先生は平成10年相ついで亡くなられ途方に迷いました。が前述の友人より久良岐能舞台

で各流の能楽教室があると聞き早速おうかがいしたところ金春流は守屋泰利先生であるということになり今日迄ご教授を受けることになりました。それまで守屋先生と御先代与四己先生のお能を何番も拝見しましたがその型は体がよくきれ、大変見事なものでした。この事は金太郎先生も泰利先生の能は「道成寺」のひらきで特に鐘入りの桜間家の他流にはない独特の型、斜入りが見事であったと何かの折お聞きしました。

先の桜間同門会は毎年観世能楽堂で行われ昭和61年 国立能楽堂創建の折、私も仕舞を舞わせていただき以後隔年毎に両館で独吟、仕舞をさせて頂きました。その際守屋先生には大変お世話になりました。

私も50歳より30年恩師に恵まれ楽しい人生を送っておりますが1恩師の教えを心の糧とし、なお日々修練に励んでおります。

三井寺の晩鐘

喜 多 流 廿 日 岩 朔 朗

出雲先生主宰の出雲会の成立由来等については、先に岡林先輩からご紹介済みですので、今年の活動状況を挙げますと、昨年再開された「みんなて謡おう高砂」に参加された方のなかか

ら2名の新たな会員を加えて、3月28日 横浜能楽堂で第22回出雲会を催します。（次回は10月10日を予定）

第25回横浜五流能楽大会の競演は「鐘の段」が予定されているようですが、三井寺の出雲先生の稽古を受けていた、さる年の12月園城寺を訪れたことがありますが、重要文化財の仁王門を潜って国宝の金堂を拝観し、この寺は何度か訪れているが、この時初めて鐘楼で一撞き300円を払い、祈りをこめて鐘を撞いた。

園城寺の通称三井寺の由来である天智、天武、持統の三天皇の産湯に用いた泉の湧く関伽井屋の脇を通って鐘堂に出る。

ここにはもうひとつ弁慶が延暦寺に引き摺り上げ、谷に投げ捨てたとか色々な伝説のある梵鐘があり、これも重要文化財です。ここから坂を登って行くと西国14札所観音堂があり、その境内にある望月舞台から琵琶湖が一望出来る中国の瀟湘八景

平沙落雁

遠浦帰帆

山市晴嵐

江天暮雪

洞庭秋月

瀟湘夜雨

煙寺晚鐘

漁村夕照

をもじった近江八景の粟津、瀬

田、石山、唐崎、堅田は方向は望めても麓のビル群で見えない。ちなみに横浜の金沢八景もこれをもじったもの。浪も栗津の森みえて、海越しの幽かに向ふ影なれど月は真澄の鏡山、山田矢走の渡し舟。草津宿の矢走は望見出来、昔は東海道の近道としてここから湖上を船で天津まで往来したが、今は橋が渡っている。鏡山は見えるが、山としては独立峰の近江富士三上山が美しい。その麓に昭和39年から44年まで住んでいたことがある。

滋賀県はお寺が沢山あり、特に浄土真宗の信仰厚く村々に点在していて、私の家の近くの浄満寺の入相の鐘が鳴ると寺々の鐘が響き合っていた。三井寺の晩鐘も響き合っていたのだらう。

日中は先述のように観光客に有償で撞かせていて、延暦寺も同様観光寺の鐘がひっきりなしに響き合っている。

三井寺の鐘は「形の平等院」「銘の神護寺」「音の三井寺」と日本三名鐘の一つとして数えられていて、NHKの大晦日の放送で三井寺の除夜の荘厳な鐘の音を聞いたことがある人が多いでしょう。

百八煩惱を取り除くよう百八撞くのですが、現在は百八に限らず出来るだけ多くの人に撞いて貰っているようです。

曾我梅林を訪ねて

金剛流 亮一

我が家の庭には植えてから30年ほどたつ梅の木が1本あり、その木から毎年梅の実が10キログラム前後の収穫がある。今年は、例年になく花の付きが早く、1月の半ば頃にはすでに満開となった。あまりに美しく、香りもよかったので、一度梅林に行こうと思い、1月26日に曾我梅林に行ってみた。

曾我梅林はおよそ90ヘクタールの土地の中に3万5000本の白梅や紅梅、枝垂れ梅など10数種類の梅ノ木があちこちに植えられている。

この日は天候もよく、梅林からは霊峰富士や箱根の山々が遠望できた。これらを背景に白梅など早咲きの梅が鮮やかに咲きすでに満開の木もかなり見受けられた。梅林では、毎年2月上旬から3月上旬にかけて梅祭が開催される。

今年も2月1日から3月1日までの1ヶ月間開催された。梅祭の前に梅林へ行ったため見物人も少なく、ゆっくりと見ることが出来た。

曾我で思い出すのは曾我物語である。「小袖曾我」は謡や仕舞を早い内から練習する曲であり、母より五郎時致の勘当を許してもらった兄弟が母の前で祝



言の合舞を舞うという曲である。

その舞を15年ぐらい前に田村信一郎先生から教わり、十郎祐成を私が、五郎時致を田中保博さん（当時、一緒に稽古をしていたが、現在は九州の実家の方でご活躍中である。）の役で舞ったのを懐かしく思い出した。その兄弟のお墓が曾我梅林の近くにあることに気がつき、行ってみた。

曾我兄弟の菩提寺の

「稲荷山祐信院城前寺」である。この寺は御殿場線下曾我駅から徒歩約10分程の所にあり、また曾我梅林からは県道72号線を北へ1キロメートルほど行つた所にある。

この寺は、建久4（1193）年兄弟が仇討に成功して世を去った後、叔父の宇佐美禪師が遺骨をこの地に運び庵を結んで菩提を弔ったのがはじまりといわれている。この寺の裏山には、曾我兄弟のほかに母満江・義父祐信の供養墓がある。また、兄・十郎が虎御前を偲んで腰をかけ

た「偲ぶ石」が境内の裏にあった。なお、寺では幼稚園の経営も行なっており、本堂の前の庭には遊具を置き、園児達が遊んでいた。境内の入口には、園児が園外へ出ないように門がしてあり許可を受けてから入っていくようになっていた。

能楽堂だより

二十一年十月以降の公演

横浜能楽堂では、次のとおり公演を開催いたします。

このほか毎月、第二日曜日に「普及公演―横浜狂言堂―」を開催いたします。

企画公演「英雄伝説 義経」
第二回「頼朝の追及に

見事！逆襲」

十月十二日（月・祝）午後二時開演
能「正尊」（金剛流） 金剛永謹

第三回「壮絶！屋島の合戦」
十一月二十三日（月・祝）

午後二時開演

能「八島 泰頼市語」（金春流） 櫻間金記

第四回「弁慶の機転と豪勇」
十二月十九日（土）午後二時開演

能「安宅 勳進帳・酌量・延年之舞・具立員付」（観世流） 梅若玄祥

第五回「屋島に消えた

継信の母との出会い」

二月七日（日）午後二時開演
能「暇待」（喜多流） 香川靖嗣

第六回「義経を守り抜く 忠信の忠義」

三月六日（土）午後二時開演

能「忠信」（宝生流） 宝生和英
各回とも

解説

三宅晶子

琵琶・語り 上原まり

S席七千円、A席六千円、

B席五千円

チケット発売中

第五十七回横浜能

十一月七日（土）午後二時開演

狂言「隠狸」（和泉流） 三宅右近

能「夜討曾我 大藤内」

（観世流） 田邊哲久

岡本房雄

S席四千元、A席三千五百円、

B席三千元

チケット発売日

電話 九月十二日（土）正午から

窓口 九月十三日（日）正午から

お問い合わせ・お申し込みは、

☎〇四五（二六三）三〇五五まで。

《編集後記》

▽今号から、巻頭言を除き、漢数字から「洋数字」に替えました。

横浜能楽連盟 連絡先

◎文書郵送又はFAXの場合

〒233-0013 横浜市中南区丸山台二丁目

FAX 〇四五―八四四―二九〇三

TEL 〇四五―二六三―三〇五〇

◎電話の場合 横浜能楽堂